

本文

※例文は学習用です。

- ① 唯だ仁者のみ能く人を愛す。／ただ仁者のみ能く人を愛す。
- ② 我れ独り生く。／我れ独り生く。
- ③ 但だ聞く人語の響くを。／ただ人語の響くを聞く。
- ④ 特だ以て口舌を為す労のみ。／ただ口舌を以て労を為すのみ。
- ⑤ 是れ口腹を養ふ耳のみ。／これ口腹を養ふのみ。
- ⑥ 夫子の道、忠恕のみ而已矣。／夫子の道は、忠恕のみ。
- ⑦ 惟だ君のみ知る之を。／ただ君のみこれを知る。
- ⑧ 徒らに読むのみ而已。／ただ読むのみ。
- ⑨ 直だ百歩ならざるのみ。／ただ百歩ならざるのみ。
- ⑩ 只だ在り此の山中に。／ただ此の山中に在り。
- ⑪ 但だ手の熟するのみ爾。／ただ手の熟するのみ。
- ⑫ 寡人の於ける国や、尽心を焉くす耳のみ。／寡人の国に於けるや、心を尽くすのみ。

設問

1. 例文①の「唯」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで書け。
2. 例文①の「仁者」の下に付いている「のみ」は、何という限定を表しているか。意味を簡潔に説明せよ。
3. 例文①を書き下し文に直せ。
4. 例文①「唯仁者能愛人」を現代語訳せよ。
5. 例文②の「独」の読み方をひらがなで書け。
6. 例文③の「但」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで書け。
7. 例文③を書き下し文に直せ。
8. 例文③「但聞人語響」を現代語訳せよ。
9. 例文④の「特」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで書け。
10. 例文④「特以為口舌勞耳」のように、文頭の「特」と文末の「耳」が両方使われている。このとき、訳の上で「ただ～だけだ」という限定の意味はどのように表れるか、簡潔に説明せよ。
11. 例文⑤の文末「耳」の読み方をひらがなで書け。
12. 例文⑤を書き下し文に直せ。
13. 例文⑤「是養口腹耳」を現代語訳せよ。
14. 例文⑥の文末「而已矣」の読み方をひらがなで書け。

15. 例文⑦の「惟」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで書け。
16. 例文⑦を書き下し文に直せ。
17. 例文⑧の「徒」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで書け。
18. 例文⑧の文末「而已」の読み方をひらがなで書け。
19. 例文⑧「徒読耳」を現代語訳せよ。
20. 次の限定を表す字のうち、文末に置いて「～のみ」と読むものをすべて選び、記号で答えよ。
 - ア 唯
 - イ 耳
 - ウ 但
 - エ 而已
 - オ 独
21. 限定の表現について、次の問いに答えよ。
 - (1) 文頭に置く限定の字を、本文中から二つ抜き出せ。
 - (2) 文末に置く限定の字（語）を、本文中から二つ抜き出せ。
22. 文末の「耳」「而已」は、もともと二つの語が縮まってできたとされる。「而已」はどのような意味から「～のみ」の意になったか、簡潔に説明せよ。(記述)
23. 「ただ～だけ」という限定を表すために、文頭の字と文末の字を組み合わせる用いることがある。その効果（意味の上でどうなるか）を一文で説明せよ。(記述)